

# 松戸市交通ビッグデータ見える化協議会【第1回】 議事録（要旨）

◎日 時：令和4年11月9日（水）10:00～11:45

◎場 所：松戸市役所 新館7階 大会議室

(1/2)

議事内容（○：質問・意見、→：回答）

## <資料1 本協議会の枠組みと進め方>

意見なし（了承を得る。）

## <資料2 松戸市の現状と課題に関する内容>

○P13～16について、H27年度全国道路・街路交通情報勢調査は外環の開通前の交通状況であるため、R3年度全国道路・街路交通情報勢調査で更新した方が良い。

→R3年度全国道路・街路交通情報勢調査の公表後に更新する。

## <資料3 交通ビッグデータを活用した渋滞及び事故の発生状況の分析に関する内容>

○国県道のうち県道でもセンターラインのない狭小な道路がある（主要地方道千葉鎌ヶ谷松戸線常盤平や主要地方道市川柏線金ヶ作等）。生活道路としての利用が多く幹線道路としては実態と乖離するため、配慮した方が良い。

→対策検討にあたり取り扱いに注意する。（平均旅行速度10 km/h以下の区間が一方通行やセンターラインが無い道路の場合は渋滞箇所から除いて検討している。）

○地元意見は新たに意見収集する予定はあるか。

→日々、市に寄せられている要望等があるので、現時点で新たに意見収集する予定はない。

○抜け道の分析は非常に難しい。ETC2.0で全てわかるわけではないので、対象を絞ったうえで詳細に分析していく必要がある。

## <資料4 課題箇所及び対策候補箇所の抽出、優先順位の考え方に関する内容>

○国で検討されている渋滞や事故の定義との整合性はどのように考えているか。差異が生じているのであれば意識して進めた方が良いと思う。

→既存の資料との整合を鑑みて検討する。

○既存の課題箇所との違いはどこか、違いが出た箇所はなぜ違いが出たのかを整理しておくが良い。

→整理する。

○ゾーン30だけでは効果が薄いため、道路管理者が狭窄やハンプ、注意喚起の路面標示等、物理的デバイスも併せて検討したほうが効果的と考える。

○ゾーン30内のエリアに何かしら物理的デバイスを入れる対策は国交省も展開を期待しているので、実施できるか分からないが、できれば検討案としてあっても良いと思う。

→基本的にはこれまでのゾーン30を進めていくことで考えている。ゾーン30プラスは地元住民との協議等、実施のハードルが高い認識を持っているが、ご意見を踏まえ、必要に応じて検討していく。

議事内容（○：質問・意見、→：回答）

<資料4 課題箇所及び対策候補箇所の抽出、優先順位の考え方に関する内容>

- 今後、渋滞箇所、事故箇所はすべてを検討していくのか。  
→まずは優先順位を決め、整備していきたい。整備していく中で道路整備が進み交通の流れが変わることも考えられるため、データ更新で効果検証しながら対策候補箇所は見直していくことで考えている。
- 次回以降、対策検討をしていくとのことだが、対策のスパンは長期か短期か。北千葉道路の事業も進んでいる。  
→10、20年の長期では考えていないが、優先順位の検討の際は事業の早期実現性の観点も踏まえられたら良いと考えている。
- 今後、データ更新により、課題箇所は追加されていくのか。  
→データ更新は全域で見直すため、追加や削除はあると考えている。
- 抜本的な対策としては交差点を広げること等が考えられるが、ハード整備は難しい状況と想定される。船橋市では、ビッグデータを活用してどのような短期対策が出てきたか、事例はあるか。  
→渋滞の要因が信号現示や横断歩行者の影響だった箇所は、信号現示の調整で混雑緩和が図れている。

<その他>

- 次回は2月開催を予定している。

●開催風景

